

特244
867

政局を繞る人々

昭和政治家評論

の下



1

0004830-000

特244-867

戦時下の政局を繞る人々

角屋謹一・著

文王社

2版

昭和14

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著
第67条の規定に基づき、平成12年3
月で文化庁長官の裁定を受け使用するも



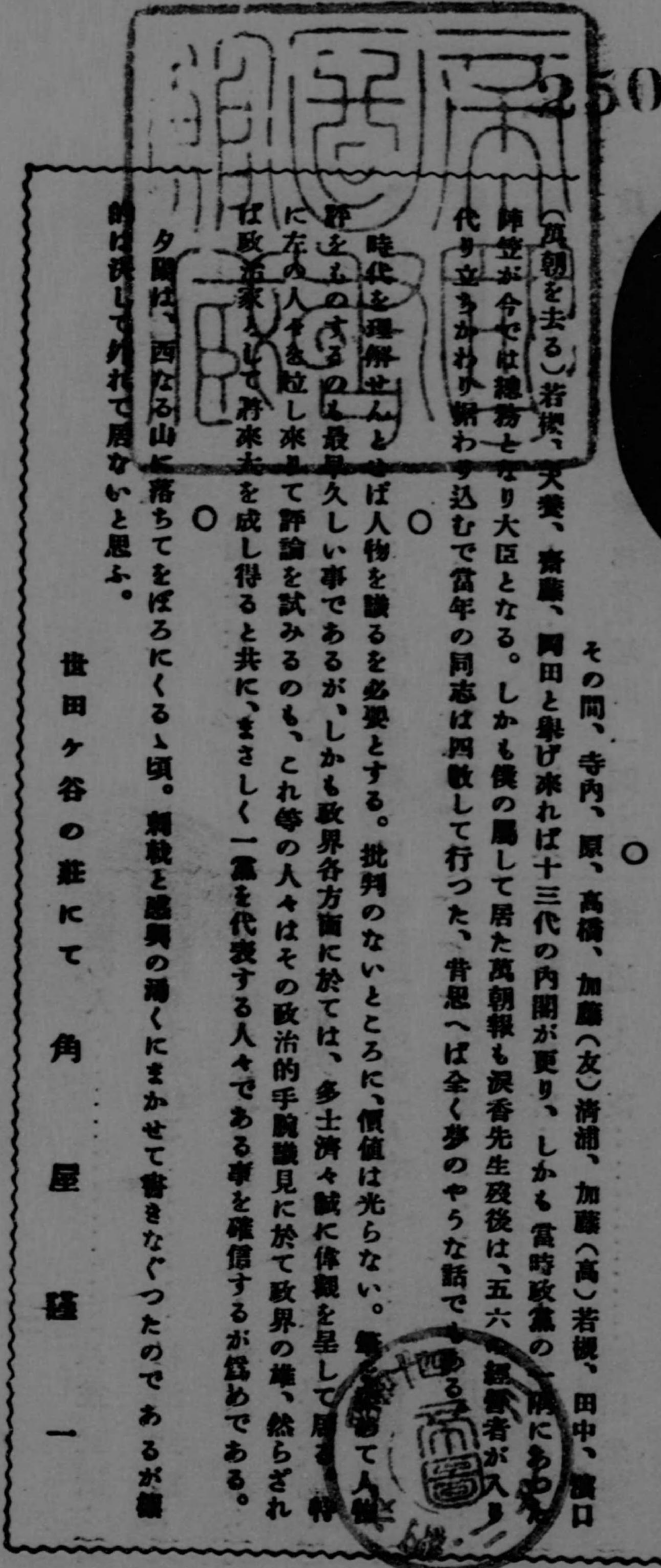
自序

漢香、黒岩周六氏がまだ萬朝報の社長として健在であり、所謂萬朝の黄金時代、入社して以来、帝國議會を始め政黨擔當の肥者となり、各政黨本部に出入する事茲に十六年近う、その歲月は極めて迅速に流れ去つて行つた。

（萬朝を去る）若櫻、天養、齋藤、岡田と舉げ来れば十三代の内閣が更り、しかも當時政黨の一角にあり、陣笠が今では總務となり大臣となる。しかも僕の屬して居た萬朝報も漢香先生歿後は、五六の經營者が入り代り立ちかわり替わり込むで當年の同志は四散して行つた、昔思へば全く夢のやうな話で

時代を理解せんといふ人物を識るを必要とする。批判のないところに、價値は光らない。無闇に人を非難するものも最早久しい事であるが、しかも政界各方面に於ては、多士濟々誠心俸親を呈して居る中に左の人々を冠し來りて評論を試みるものも、これ等の人々はその政治的手腕識見に於て政界の雄、然らざれば政治家として將來を成し得ると共に、まさしく一黨を代表する人々である事を確信するが爲めである。

世田ヶ谷の莊にて 角 屋 謹 一



目次

(順序不同)

——戦時下の政局を繞る人々——

農林大臣……………櫻内幸雄……………四
 財政の權威……………前商工大臣小川郷太郎……………六
 民政黨總裁……………町田忠治……………八
 政友會代行……………前文部大臣鳩山一郎……………一〇
 彼と川崎卓吉……………作田高太郎……………三
 才腕と力量……………三好榮次郎……………三
 將來ある政治家……………手代木隆吉……………四
 彼と連絡會議……………田村秀吉……………一五

清廉の人……………八並武治……………六
 誰れにもすかれる……………杉浦武雄……………六
 將來を約束される……………成島 勇……………九
 政界の苦勞人……………前逓信大臣小泉又次郎……………三〇
 昭和政界の第一人者……………若槻禮次郎……………三三
 逓信政務次官……………平川松太郎……………三三
 大藏參與官……………矢野庄太郎……………三五
 鐵道大臣……………前田米藏……………三六
 外務政務次官……………清水留三郎……………三六
 文部政務次官……………小柳牧衛……………三九
 海軍政務次官……………松田竹千代……………四〇
 陸軍參與官……………中井川 浩……………四三

國民同盟總裁……………安達謙藏……………三
 信賴と期待……………伊豆富人……………四
 司法參與官……………濱野徹太郎……………五
 鐵道參與官……………青木亮貫……………五
 政友會幹事長……………砂田重政……………七
 衆院豫算委員長……………櫻井兵五郎……………一〇
 政友陣營の騎士……………牧野良三……………一〇
 政友代行委員……………前農林大臣島田俊雄……………一三
 純情の青年政治家……………伊藤五郎……………一四
 民政陣營の花形……………山田順策……………一五
 實行力のある男……………木村淺七……………一六
 熱情と氣魄……………森田重次郎……………一七

民政黨幹事長……………勝 正憲……………一八
 衆議院議長……………小山松壽……………二〇
 前北海道長官……………池田秀雄……………二〇
 民政陣營の財政通……………中村三之丞……………二五
 知事出身には珍らしい……………川崎末五郎……………二五
 國志、機智、雄辯……………武知勇記……………二五
 前逓信大臣……………頼母木桂吉……………二五
 信望と實力……………高橋義次……………二六
 前内閣書記官長……………風見 章……………二六
 彼と外交問題……………芦田 均……………二六
 圓滿の常識……………卯尾田毅太郎……………二六
 彼の聲望……………大麻唯男……………二六



大臣 林 農

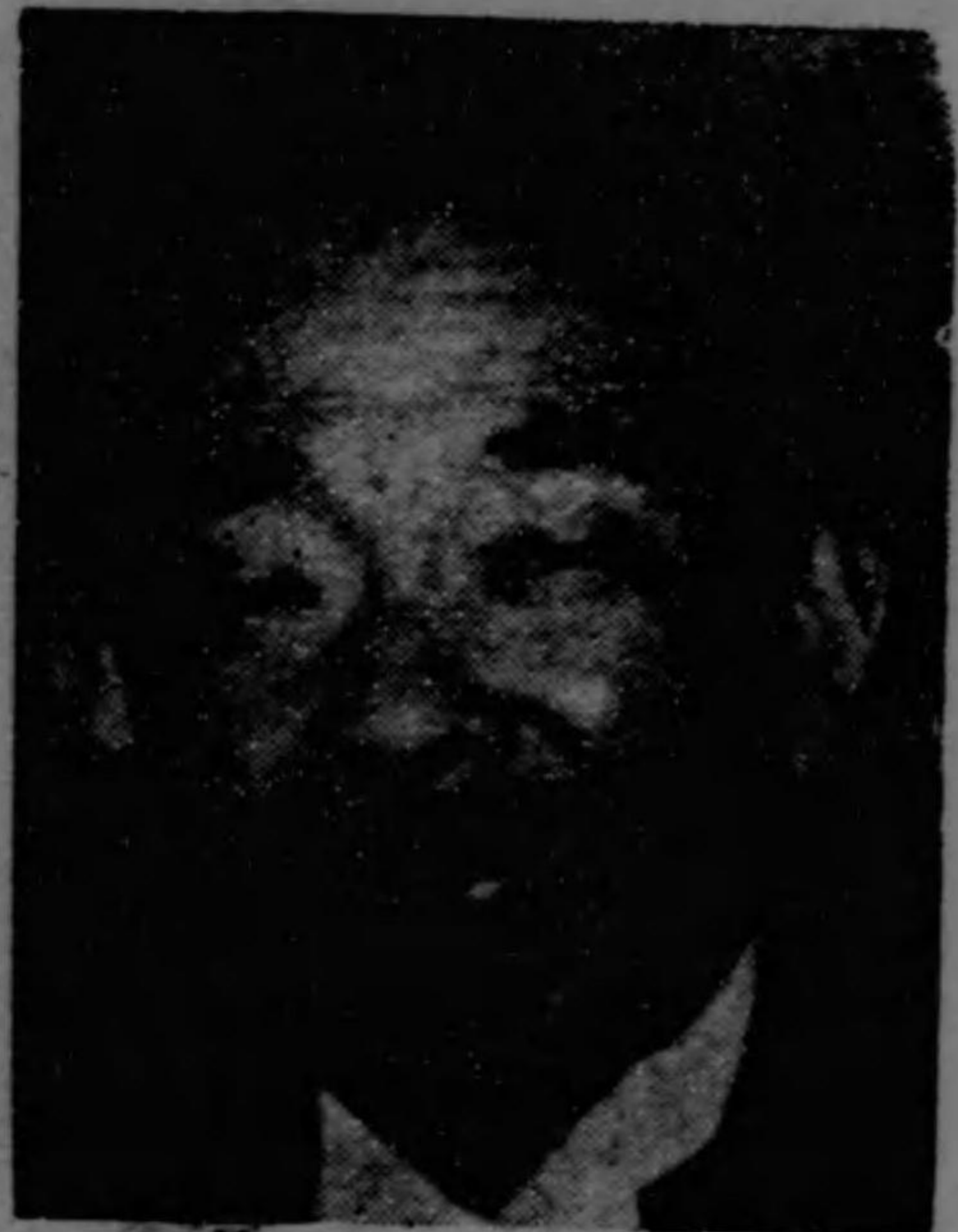
町田總裁後継者の一人

櫻 内 幸 雄氏

町田總裁の後継者を内に求むる時に於て目下二人の候補者がある、即ち彼れ櫻内幸雄と永井柳太郎のそれである。前者は若槻内閣時の商工大臣とし名あり後者は前逓信大臣にして廣田内閣時の拓務大臣、櫻内は練達堪能の政治家にして昭和政界の巨頭、常に内に在つて町田老總裁の後ろ楯として老總裁を補佐し今日民政黨の黨勢を確保してゐるのだ。従つて彼れ櫻内の聲望に偉大なるものあり、即ち今日町田總裁が彼れをその陣營に有する事は千軍の兵を有するよりも力強いものがあるのである。永井柳太郎の如く、大向受けのする雄辯は持たないが、政治家としての実行力を有し、そして時代の政治意識を把握する動力とこれを實行する戰鬥力とを兼備する點に於てはるかに優り、寡黙實行、腕と頭の併行した政治家で、中央政界彼の右に出る者が少いとされて居るのだ。

丁度先年逝つた川崎卓吉の如く膽力と智力を持つた政治家型である。誰でも一眼見てピクリと

来るやうに、あの智謀の深きを象徴するかのやうな彼れの大きい頭腦と満身の覇氣をこゝにあつむるかと思ゆる顔貌とは彼れの政治將來の如何に輝かしきものあるかを物語るもので彼の在るところ和風張り五十年の野人をこゝに見るかの感あらしむる所以のもの天の彼に恵む偉大なるものありと謂ふべきである。政黨人として彼が政治を以て彼の生命の唯一最大の對象としてゐる事不思議はないが、しかし彼は憲政の常道を歩まんとして議會政治のため滅私奉公、飽迄國家のため奮闘する事を誓つてゐるのだ。従つて彼は非常時局に對し正しき認識を誤らず彼の有する強靱の才能と清明なる心境とを以て戰時並に戰後の對策に政治をやるところに彼は生きてゐるのだ。彼の眞骨頂として認むべきは實は周密なる籌策を凝らし一度その決着點に到達すればこれを斷々乎として實行に移す勇氣と手腕を有する事である、由來政界のことは決意と斷行とを必要とする場合がなかく、多いものだ、彼の圓滿なる常識に加ふるに膽斗の如きものを賦與されて居るのみならず大局を見る明は準の如く彼の豫測にして外れる事は少いのだ。何れにせよ現時の日本はいろ／＼の意味に於て非常時である、時局も戦局も層一層の重大と深刻を加へてゐる、されど萬難ふりかゝるともよくこれに堪えて時難打開に猛進し國家を泰山の安きに置くであらう事は萬人等しく信するところであると共に、彼は大政黨の次期總裁候補者として有力なる存在を有する事は今や黨内外の常識で誰しも信じて疑はないところである。



元商工大臣 小川郷太郎氏

昭和政界唯一の財政家

小川郷太郎氏

元商工大臣で、そして現在民政陣營に於ける首脳部である。党内切つての政治家で動かすべからざる存在を確保してゐる。彼は東京帝國大學法科大學卒業後、京都帝國大學に補せらる、その間立命館大學、同志社大學、關西大學の講師を兼ね又た京都商業會議所特別議員、拓殖大學を監もやり又た帝國經濟會議を員被仰付もしてゐる。彼が京都帝大に居る時、先の總理大臣で現樞密院議長たる近衛文麿が同大學の學生で、此の青年公爵は小川さんの教へをうけたもので、又た日曜日などにはよくさゝやかなる小川邸に遊びに来てゐたものである。星移り物變る、茲に二十餘年、當時の學生は昭和十四年の休會明け議會無任所相として議會の質問に答へ、又た樞相として無任所大臣を兼ねる近衛公に對し、憲法上の疑義を正しむべく民政黨を代表して、その質問第一戦に起つたのが當時の小川先生であるが故に面白い。法學博士で純理論家であるが、近來政治家としての貫録は、商工大臣をやつて以來、なかくくに見るべきもの

がある。平沼内閣成立當時、平沼男の招きによつて組閣本部に乗りつけた町川民政黨總裁が、政黨尊重の意味から閣僚を政、民二名宛出したいと申込むのだが、ソレが實現してゐたら農林大臣の櫻内と今一人は誰であつたかと、當時党内でいろ／＼噂されたものであつたが、しかしトへ總裁の腹中彼の名が藏されてゐなかつたにしろ、彼が現在の首脳部中近き將來再度の大臣の椅子につく可能性の濃厚を説かざる者のないほど彼の聲望の高きことが窺知されてゐるのだ。衆議院の議席を贏ち得て以來茲に七回を算してゐるが、政黨人として彼が政治を以て彼の生命の唯一最大の對象としてゐるに不思議はないが、しかし彼は極めて坦々たる憲政の常道を歩まんとして居る。そして町川總裁が彼を信頼する所以は、畢竟彼の人物がしつかりして至公至平で節義に堅き高士としての存在を有してゐるからにも因るものが多いからだ。一さすが教育界出身の學者だけに何處かに學者臭味のぬけ去らぬやうだが、しかし人間として正直で眞面目でよく人の面倒をも見、又た簡單なもの、解る政治家で彼の幹事長を要望する聲も起りつゝあるのは事實である。重厚謙直の一面、烈々たる氣魄を藏し正を踏むで恐るゝところなしとの信念に燃えてゐる、そして戦時下、非常時局に對し正しき認識を持ち經世濟民、その志を天下國家に持つてゐる。何れにせよ彼は昭和政界に於ける政治家で民政陣營の一大威力であると共に再度の大臣の椅子に近づきつゝある事は今や黨内外信じて疑はないところであらう。



天下一黨

民政黨總裁

町田 忠 治氏

大政黨の總裁である。肅正選挙で百八十名の議席を衆議院に贏ち得た第一黨の首領でもある。政黨政治華やかな時代、政民二大政黨の總裁は即ち總理大臣の候補者でその政權の受取人として天下に認められたわけにかつては總裁問題を繞つて幾多の運動が明暗裡に行われ、それがためには床次が出で安達が脱し、隨所に悲喜劇が演ぜられたものでもあつた。しかしながら昭和九年より十年、十一年にかけての政界は非常時局の壓迫にこなへて、やゝともすれば世上、政黨の解消が叫ばれ或は立憲政治に對して非難を試むるものさへあり、従つて國民の立憲政治に對する信念の上にも若干の動搖を見むとなし、しかも今回の肅正選挙を経た政界は一陽來復の曙光を導くであらう事と信ぜられたのであつたが、未だ機到らず政黨受難は相變らず繰返されつゝあるのである。しかも議會の多數黨たる民政黨が内閣に一名の閣僚を送り、第一黨の總裁が政權の受取人たる事に縁遠き現政界に於ては彼にとり誠に氣の毒でもあるが、それにしても何れの日にか議會政治が常道に復する事であらうかされど彼を繞りて輝く諸星また才鋒を隠して肅かに彼の信頼に任じ、智謀を深く秘めて彼のために支柱たるを欣こぶ點に於て人の和成れり、天下の事また、何事か成らざらんやでもある。されど彼が總裁の器にあらずと總裁就任を固辭した彼が、果して總裁の器であつたか否と言ふ事となる問題

題は自ら別である。言ふ迄もなく現在の民政黨に於いて貫録に於ても信頼に於ても、彼が總裁に推され今又總裁の期滿するに及んで彼を推し、重任せしめた事は如何に黨員の信頼を集めて居るかが窺はれると共に彼の率ゆる民政黨が一条亂れず結束し時艱克服に邁進しつゝあるその意氣込みが窺知されるものである。彼が總裁となつて以來岡田内閣の解散に次で林内閣の選挙が行はれ何れも民政黨をして天下第一黨たらしめたものが、時に利あらず時局の重壓は、政黨から一名若しくは二名の閣僚を出すに過ぎず、之を若槻、濱口等の總裁時代と比するに及轉た同情を禁すべからざるものがあるのである。只然し乍ら彼は此點に關し一度も不平めいたことを言わす常に國家の大局に立脚し又た非常時局を正視して、超然内閣の協力援助に當つて居るのである。老來益々元氣旺盛、春の風の様にユーモアもあれば皮肉もある、それに大臣待遇を賜ひ、現在内閣參議として自らは國家の重きに任じて居るのだ。さりながら進歩は常に古きもの、崩壊によつた事を感じずには居られない。何といつても人物綺羅星の如く輝いて居た時は加藤高明内閣から若槻を経て濱口内閣にかけての時、内閣以外、黨内は大巨級の人物で第二陣が形成出來たものであつた。言ふまでもなく政黨の生命は永い。若きを育成しその大成に意を注ぐのも先輩としての義務であらう。今や我國は聖戰第三年を迎へ、東亞再建の新段階に入り時局は益々多難である。されど彼の有する周密なる思慮と、中庸なる政策とを以て滅私奉公國難打開に當ると共に議會政治の爲猛進するであらう事は萬人等しく信じて止まない所である。



前文部大臣

改友會總裁代行

鳩山一郎氏

普選前後の政界に於て、それも政黨政治華やかなりし頃、政友會の鳩山一郎と、憲政會の三木武吉とは何れもお膝下から打つて出て居る代議士だと言ふ意味のみではなく、東京府市會に勢力を植つて居る關係等もあつて、大正の政界に雄飛する此若い政治家の將來に對し特に兩者いづれも將來大臣となる素質を持つて居る點に於て政界興味の話題となつて居たものだ。彼は三木より一期ばかり早く代議士となつて年齢に於ても三木より一つ上の四十四歳何れも政、憲兩黨に於ける花形で政治家としての人氣も高く、しかも性格に到つては兩者全然相反して居るのだから何れの方面から見ても實際面白い對照でもあつたのだ。さりながら時は何の用捨するところなく流れ去つて行く。その十年は夢の間に過ぎて互に頭髮に霜を加へて行く頃となると彼等の政治運は思ひ切りそのリードを引き放して了つたのだ。昔思へば夢のやうな話でもある。彼鳩山の中央政界に於ける位置は政友會の領袖である、恰も政友會の中を流れる雷勢力と新勢力との中間にあつて獨自の位置を占めもして居るのだ。そして犬養内閣では文部大

臣、齋藤内閣では政友會を代表して再度の文相、明らから明るく政治のフェアプレーを高唱する彼でもあつた。何んと言つても政友會の政治家中珍しい風格を有する男で、そして悠々迫らぬい、何處かに典雅と言ふやうなところのアル政治家である、だから上品であるが熱と押しとが足らぬと言ふ評もあるが、しかし齋藤内閣に入つてはすぐ例の京都帝大内の共產教授の大掃除やら高橋、鈴木の密約から惹起した黨内に於ける自重派急進派の紛糾問題を政策協定と言ふ抜け穴を造つてそのピンチを切り抜けしめたその頭腦の牙えと來ては鮮かとも何んとも申しやうもない切れ味で到底他の追隨を許さぬものがあつたのだ。

彼はどちらかと言へば重厚の素質だが一面果敢の性格を持ち合わせても居る温厚で上品ではあるが、いさ腕力を揮ふ段となると往年の大隈老侯もビツクリしたし、鈴木富士彌に腕力の牙えを示したり、實に此の一郎君彼の若かりし頃は可なり勇壯活潑の場面を到るところ展開さしても居た。今や政友會には鈴木總裁の病氣をめぐつてソレ引退せよとか、或はその時期にあらずとかと騒いで居る。従つて此の病總裁を代行する筆頭總裁としての彼の責任はいよゝ／＼重いものがある、しかし誰がなんと酷評しやうが民衆は、どうしても彼と縁を切る事を欲せぬほど彼の魅力の偉大なるには誰しも驚かされるのである。民政黨の近き將來の總裁たる永井柳太郎、やがて政友會の大世帯を背負つて起たんとする彼れ鳩山一郎、伴に齋藤内閣では新人閣僚としての何れ劣らぬ梅と櫻、此の兩雄が時來りなば勢をならべて昭和政界に雄飛するの日は近い將來の事であらう



民政黨總務

雲蒸龍變するであらう

作田高太郎氏

民政黨の領袖で、現在黨總務の椅子に在る政治家である。將來大臣の椅子まで滑ぎ付く男として町田總裁始めその他首脳部方面に信ぜられもして居るのだ。平沼内閣の成立に當り政務次官の候補者中に擧げられたが、今回は前政務官は推薦せぬ建前から未だ政務官の椅子にかけない政治家のみを推薦したのでその選に洩れた事は遺憾である。識見、抱負、才腕、力量、を兼ねた民政陣營の闘士で殊に法制通として明敏なる頭の持ち主である。従つて今日衆議院の議席を獲得する事五回を算しその實戰場を踏むで千軍萬馬の間を往來して來て居るので、何事に對しても場馴れがして議政壇上に於ても實際の事務の上にも一分の隙を見せた事なき俊英である。彼は明日の政治を識るの明があり又彼には強い底力がある。彼は時々黨首脳部を丸の内常盤通りに招待して非常時局に適應した彼れ獨得の政治觀を陳する、それには内外の趨勢に言及して内閣の協力の強化を説いたり或は又議會言論の低調を嘆じ時代の即應する正論の高潮と議會品位の昂揚を力説する事を忘れないのだ。即ち彼の意見が今日迄の黨の政策となり又議會に於ける各派交渉會の決定事項となつた事は枚舉に暇ない實情にあるのだ。人間としては正直で眞面目で、そして潤達明朗である。かつて川崎卓吉在世の折り川崎に愛重された事感に重ねて記すまでもない事だ。今や彼は才鋒を隠してしづかに移動する時の流れを凝視して居る、やがて機を得れば雲蒸龍變するであらう事が信ぜられて居るだけ彼の前途には頗る興味ある新局面が準備されて居るのである。



情報部長

大きくなる政治家

三好榮次郎氏

民政黨陣營に於ける領袖である。彼が黨務部長たりし本年春厚生省の新設と共に彼はその政務次官として推薦されたものであつたが、その結果に到つては厚生政務次官の職を離れ、如く打ち棄て、顧みざる彼でもあつたのだ。衆議院の議席を贏ち得る事既に五回を算する政治家で、識見、抱負、力量に於て、早くも儼然と抜き、愈々倦む處なかつたなら將來大臣の椅子に滑ぎつける事は決して遠くない事と信ぜられもして居るのである。目下黨にあつては情報部長としては聊か役不足の感のせらるゝ様である。彼は早稲田大學政治経済科卒業後、山陰實業銀行頭取、内國通運株式會社山陰水力電氣株式會社取締役となり後株式會社山陰日日新聞社を創立し現に其社長をやつて居る。剃刀のやうな小氣味好き切れ味を持つてゐる一面、仲々薩張りした男で、簡單にも、解る政治家である。大膽で周密でそして親分肌のあるところに彼の民衆的的魅力が潜むのである。頭腦も好く辯舌も達者、殊に非常時局に對しても正しき認識を怠らず、潤達で潑刺で元氣一杯で戦時下の政治家として働いてゐるのだ。今回特に各派幹部を集めた満ソ國境視察員として衆議員を代表して同地に赴いたものだ。が何れにしても彼の政黨に於る存在は鐵中の錚々たるものであるのだ。鳥取縣からは優秀の代議士を中央政界に送つて居ると共に近き將來彼の榮光のため祝盃をあげる時がキツト來るであらう



民政黨總務

明日を約束される政治家

手代木隆吉氏

つたので、最後まで懸望された彼の政務次官が實現するに到らなかつたのは遺憾である。(當時推薦事情を記した朝日・東京日々参照)誰れが何んと言つても今日彼の中央政界に於ける存在は有力である。將來彼を産むた北海道が彼の榮世のために祝盃を擧げる時がキツト来るであらう事を忘れてはならぬ。政治家としての彼は識見、抱負、力量を有して居る、又人間としては正直で眞正目で、責任感の旺盛の紳士である。根が辯護士だけに辯舌は達者、辯護士としても政治家としても優秀で、殊に細心で太ッ腹、人の面倒はなかくよく見て居る。そして非常時局に對する正しき認識を持つ正義の闘士で、常に正を踏むで恐るところなしとの信念に燃えて居るのだ。

彼は現在民政黨に於ける總務の重要な椅子にあるが、決して幹部ぶらず誰人に對しても親切で丁寧で決して差別を設けず先鞭は飽迄之を重んじ、同僚に對し寛厚である。即ち彼が町田總裁はじめ若槻顧問、櫻内農相等に信頼され明日を約束されて居る所以であらう。



彼と連絡會

傑出せる青年政治家

田村秀吉氏

頭富田双川に愛重され田村用うるに足る!と立派に折り紙をつけられて居るだけに、識見力量に見るべきものあり、殊に頭腦明晰、若手代議士には珍らしく議壇上の雄でもある。

彼は東京帝國大學法學部政治學科卒業後、同大學院に學び高等試験行政科並に司法科合格、後辯護士となり、傍ら大學出の少壯學者や若手官吏を糾合し政策研究會を創設して同志と共に大に活躍して居る彼が今回の平沼内閣の成立當時、内閣の中樞とピツタリと手を握つて活躍したもので、彼は側面から平沼内閣が政黨を尊重し、その勢力と相結んで時艱克服に邁進すべき旨を達言して黨代表の關係を兩黨より各二名宛を主張し、殊に彼の功名の一つに數ふべきは、政府政黨の連絡を實現化した事で既にその連絡會議の成立を見た今日、彼はひそかにホ、笑むで居る事であらう。彼は衆議院の議席を勝ち得る事未だ二回を算するに過ぎないけれども、既に町田總裁をはじめ黨最高首脳部に信頼されその政治將來を約束され居るのだ。殊に此の男の好い所は、圓滿の常識に加ふるに氣魄と熱情を有し、政治將來を約束され居るに温かき人間味を有し従つてその抱負力に見るべきものが多いのだ。彼は現に民友通信社長として日刊を發行し地方新聞へ資料を提供輿論指導に努力して居る。



清康の政治家

前司法政務次官

八 並 武 治氏

政務官の官制が布かれて三度、同一省に政務官となつた事は彼八並君のみであらうほど珍しき存在でもある。幹事長も早く勤めあげ、それより黨の總務、彼の政治行遣は順調である。今後、彼に訪れるものは大臣の椅子であらねばならぬ。東京第七區が彼の榮冠のために祝盃を擧げる時はキント來るであらう、此の意味に於て選舉民は好い代議士を中央政界に送つて居るとも言へる。

東京帝國大學法科卒業の秀才でそれに誇らず彼はいよく勉強した。その上どんな人との交際でも極めて虚心坦懐にやつてのけて、如何なる難問題もスラ／＼と解決して行くところに彼の頭腦のよさを示して居る、従つて辯護士としても政治家としても極めて優秀なる存在で辯舌も速者手腕もあり力量もあり識見も抱負も十二分に具備して居るだけに、民政黨の領袖として強き存在を有して居る所以でもある。その上細心にして太ッ腹、圓滿にして敏捷果敢、しかも舌を鼓して演説に起たしむればその取材の多方面なる一語を喫するものがある。

帷幕の人であつて表面に起つ事を好まぬ性情でもあるが、一度舌を鼓して壇上に起たしめるとすれば、社會問題であれ經濟問題であれ、なか／＼に雄辯と言ふ武器も備へても居る。斗酒敢て辭せずな、酒豪で朝まで酒盃を放さぬと言ふ長尻りでもあつたが近來健康の都合で廢して居る、人は見かけに寄らぬ者、彼の一面には、春の風のやうなユーモアもあり、そして皮肉もあり、嗜みしめるにつれて面白いところのある男である。

今や彼は選ばれて若槻内閣の政務次官を膺ち得たのも畢竟彼の功績の報られたに過ぎない、如何なる實がよく種子を蒔くことなくして收穫し得ようぞ。一體で、司法省はうるさいところだとして又嚴正に力を注がなくてはならぬところでもある。圓滿にして敏捷果敢、心奥に燃ゆる活力とを物語る彼の顔貌は、よく彼の有する強靱の才能を發揮して一段の光彩を添へる事であらう況むや政黨人としての培ひを忘れぬ彼は、次第に彼の眞骨頂を發揮するであらう事の信ぜられて居ると共に今一層榮達の階段に近づきつゝある事も想像されるのである。



剛正野中と彼

唯にも好かれる政治家

杉浦武雄氏

東方陣營に於ける領袖で、中野の羽翼としてなくてはならぬ強き存在を有して居る。彼は東京帝國大學法科大學獨法科卒業後、判事となり前橋地方裁判所兼區裁判所判事に被補、又朝鮮總督府判事、京城覆審法院判事をやり後辯護士となり中央政界進出となつたものであるが今や衆議院の議席を獲得する事五回に及その間拓務參與官の椅子にあつたこともある。民政黨に居た時は、風見章や加藤綱一と相併びその將來を囑目され特に安達謙藏等の首脳部に愛重されたものであつたが安達が民政黨を脱黨するに及び彼又安達と行を共にしたものであつたのだ。頭腦が頗る好く、彼が民政黨に居た時は、蓬髮梳らず素服顧みるところなく朴訥の青年政治家であつたが、それでも民政黨陣營切つての新智識であり同志満々たる議政壇上の雄でもあつた。従つて旺むに新智識の吸引に努めて居ただけに、彼の抱懐するところのものが民政黨の新政策にその内容となり形となつて現れたのも決して少くなかつたものだ。彼の世間放れのした放れ業は、しばしば珍談製造の種を蒔いて、時々色んな噂を擴げて行つたものであるが素よりそれは無邪氣で頗る愛嬌のあるものであつた。今や彼の東方會は大衆黨と合同してより強き新政黨を結成し革新政策の第一歩を踏み出さんとしたものであるが合同が蹉跌したのは遺憾である。されど何れの日にか合同の旗は翻へるであらう。その先陣を承はつて闘ふ武者ぶりの雄々しさを國民大衆は之を刮目すると共に彼の眞骨頂を發揮するの日は近づきつゝある事を知るであらう。愛知縣は好い代議士を中央政界に送つて居る。



量力と魄氣

將來大成する政治家

成島勇氏

民政黨陣營に於ける少壯政治家中將來を約束されて居る一人である。即ち町田總裁始め首脳部に信頼深き所以である。第七十四議會では院内幹事をつとめ、次第に當選回数を重ねるにつれ大幹部の列に自ら進み入るであらう事は確實である。今議會、臺灣米管理及び米穀會社法案に對し公正の議論を有しその米穀法案委員會ではその問題こそ彼れ得意の所上だけあつてなかくの活躍を見せたものである。彼は東京帝國大學農科大學農學科を卒業して居るだけ此の方面の政策に對しては深き關心を持ち従つて研究調査を怠らすそしてなかく勉強するのだ。かつて彼が農科大學に居た時同僚五六と大學總長の室に集まり土壤學や農村問題等で議論を戦はしたものであつたが學生の多くは最新刊の翻譯の受け賣りに終始したが、さすがは總長、ア、君等の議論は何本に出で居つたよとアツサリ受け流され散々の體で逃げ出したものだ。それにつけても昨今の議會の議論のすべてとは言はぬが、多くは新聞雜誌論說等の鶏呑みが大牛を占めて居り之がため言論に權威なきことを感じ獨自の見地からいよ／＼農業政策に對し勉強を續けて居るが、従つて今後農業政策等に對し彼の貢獻するところけだし少くはないであらう。頭腦も好く、人物がしつかりして居る又政治家としての素質を有し闘志もあり抱容力に見るべきものがある。即ち少壯代議士中傑出した存在で彼の舞臺はいよいよこれから展開されると共に今後の彼に興味を持つものゝ多い所である。千葉縣は好い代議士を中央政界に送つて居る。



元選信大臣

政界の苦勞人

小泉又次郎氏

二〇

元選信大臣で、現在民政陣營に於ける筆頭總務である所謂政黨生えぬきの政治家で衆議院勤続三十年の功勞者として政友會の三土忠造と共に表彰された事はツイ此の間である。そして彼が自らの政治歴史に残した、輝かしき普選通過の記念日も来る三月を以て、その第十五迎へむとして居る。半島翁定めし感慨深いものがあるであらう。彼が濱口内閣成立と共に選信大臣となつた時、文豪徳富蘇峰が言つた「濱口内閣の清新の氣を加へたものとすれば、小泉又次郎の名は最もそれに相當しいものであらう」と、かつて政民協調内閣の時、彼にふりかゝつて來た副議長の榮職まで、彼れの如く淡泊で名利を越わさるものにとつて有難迷惑であつたのだ。それも已むを得ず「野人禮に慣らはず諸君の厚意に酬ゆる能はざるを遺憾とする」との挨拶をして満場をヤンヤと言はせ、山王臺副議長の名を止めたのもツイ此の前のやうな氣がするがしかし歳月は夢のやうに過ぎ去つた。

さりながら普選の勇士としての小泉の名は、既に天下に定まり、又一般的でもあつた、彼の精魂の盡きざる限り彼の胸から取り消す事の出來得ない刻印であらう。大正の中期から政界を澎湃としてつゝむだ普選獲得の矢叫びは、芝公園に、上野の兩大師前に或はまた赤坂山王臺に、苟く

も國民大會や憲政擁護の大旗が勇ましく翻へるとき彼の名が轟かぬ事とてはない、彼れが鐵の如き體軀は普選同志と共に多難なりし普選運動の大局を拾收していよく普選をもち立て國民大衆に政治の素地を造らせて、政治の大改革たる大正維新は達成せられ、今日尠くとも憲政の大道を踏むで謬まらぬかの如く時勢を來すために常に犧牲に供せられて來たではないか。

かく考へる時、吾人の思ひ出す事は米國ワシントン、ホールやリンカン、メモリアルの存在は果して何を意味するか、今日吾等が赤坂山王臺上に普選偉勳者の名を残さんとならば彼れ小泉半島をはじめ、大竹貫一尾崎學堂、島田沼南降旗息機庵等の魂魄をこそ銅に鑄りて後人に傳へ且つその壯心を鼓舞せねばならぬ。彼は勿論明治の産ではない然し年齢だけで老と若きを區別する事の出來ないと言ふのは彼にとつて眞理である彼は自ら青年と談する事を好みよく誰れ彼れを連れ「繩のれん」をくりり胡座をかいてすし、てんぶら牛躰をつゝくと言ふやうな事をやり、ともすれば古くならうとする自分の頭に清新の薪を加へ自らは「永遠の青年」たらんとした年輩政治家の頭に新しい空氣を注いでゆく事に専念する、之がため民政陣營つねに潑刺として壯心ために鼓舞するを覺ゆるのである。けだし大丈夫空しく老ゆ可からず彼の如きは民政陣營の一大支柱として、なくてはならぬ強き存在を有し又昭和政界民衆政治家の第一人者でもあらう。



問 顧 黨 政 民

昭和政界の第一人者

若 槻 禮 次 郎 氏

若槻内閣を組織しそしてまた濱口内閣の時、軍縮會議に帝國首席全權として英國に使用して、重大なる責務を果し、その功績に酬わられて男爵を賜はり、明けては濱口總理歿後に於ては顧問の無風情態より無理やりに引つ張り出されて大民政黨の總裁として再び若槻内閣を組織するなど、彼はまさしく當代に於ける幸運兒であると共に、又、昭和政界に於ける第一人者でもあらう。

たゞ、しかしながら彼は濱口内閣に於ける金解禁の後をうけて、内はいよいよ緊縮政策を實行して、行、財、税の整理に對しては、渾身の力をそそぎ、その歴代内閣の到底爲し得ざりし官吏の減俸及び恩給法改正等を斷行して天下に氣を吐き、外にあつては滿洲に於ける重大懸案の解決に當るべく彼は敢然として國家の權益と民人福利の増大のために全力を擧げてこの内外重大なる

時局に最善の努力を傾けて居たが、はからざりき、變態的現象である政民協力内閣の問題より閣内不統一の責を負ひ總辭職の止むなきに立ち到つたほど左様に若槻内閣の末路は悲壯でもあつたさりながら、奇怪なる政變に伴ひ安達謙藏等の脱黨者あり、その陣容未だ整はざるに第六十議會の解散に次では前藏相井上準之助の暗殺事件あり、更に智飛江木翼は病に呻吟し往年の意氣求むるによしなく、しかも政戰の結果は、戦ひ利あらずして百四十餘名を獲得したるに過ぎざるも反つて黨内に於ては少壯新人擁頭の新現象となり、その結束以前に増して強固にして二大政黨の對立に處し何等微動だに見せず、しかも彼を繞りて輝く諸星また才鋒を隠し肅かに彼の信頼に任じ智謀を深く秘めて彼のために支柱たるを欣ぶに於て、天下の事又何事か成らざらんやである。たゞしかしながし十一月初旬、彼は總裁の辭任を發表したのである。その後繼者として町田忠治を推薦し、三百萬黨員の觀意懇請あるに拘らず和志を貫徹するに勇敢でもあつた。若槻辭任の理由は、暫定總裁である自分は、今日が尤も好き辭け時であるから後進に道を譲る意味に於て辭任する、黨内人物乏しからず以て何をか憂えんやと言ふにあつた。何れにせよ彼は總裁を辭して顧問となつた、そして彼を總裁として失つた民政黨には重大なる打撃たるのみならず、政黨政治將來のためにも誠に遺憾を禁ぜざるものがあるのである。

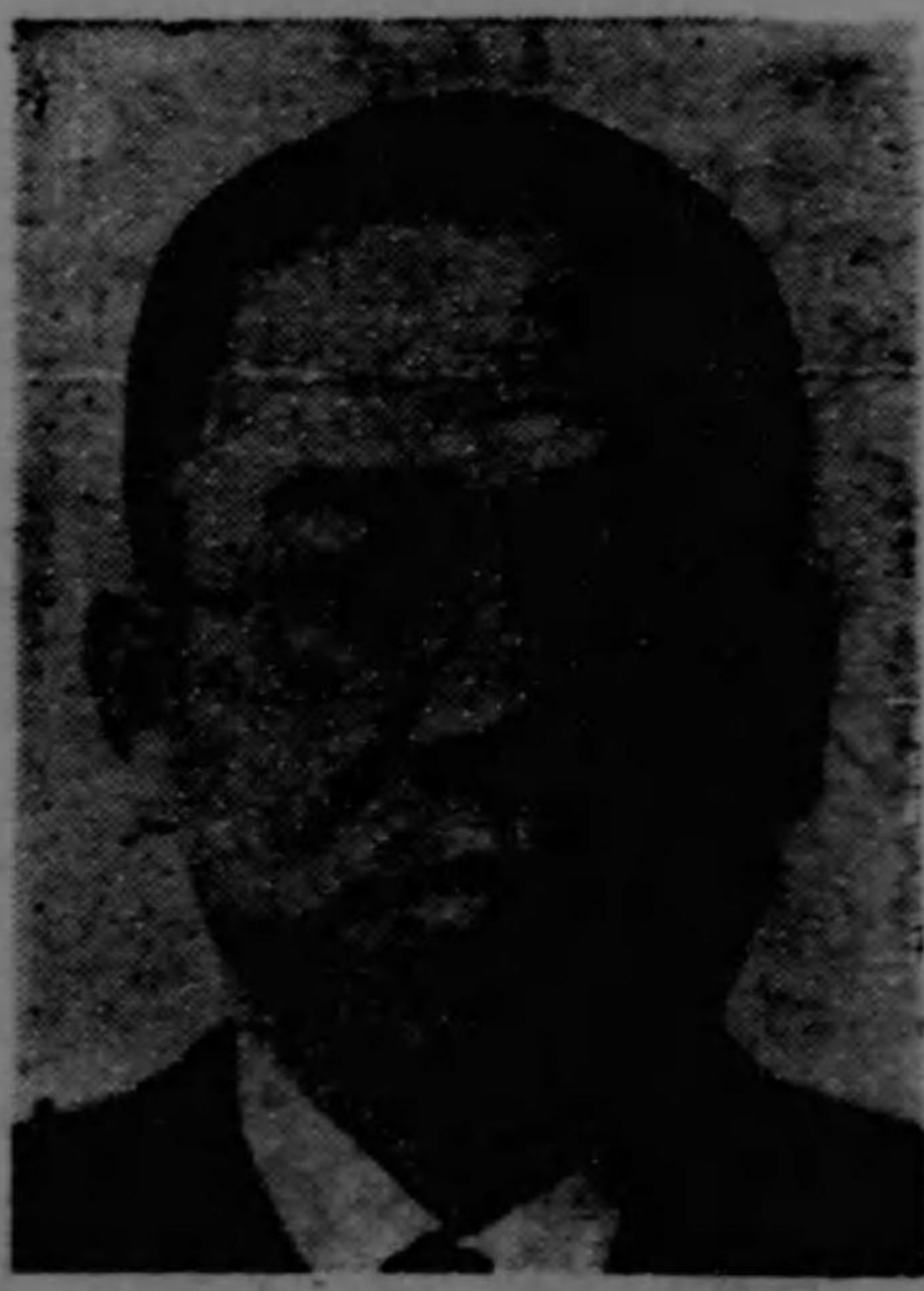


練達堪

遞信政務次官

平川松太郎氏

ボルネオ、蘭領セレベス、比律賓及我委任統治南洋群島、その行程七千哩、その間政治經濟産業の實際を視察して歸つたものである。又先に樺太及亞港方面を視察した事がある。濃厚の政治家であると共に、練達堪能の人物に誰にも好かれる性格の持ち主である。平沼内閣の成立と共に、内閣でその政務次官となつたのだから、彼は徹頭徹尾遞信省に縁の深い譯で、此點は農林政務次官の松村謙三と、その軌を一にして居るのだ。彼は中央大學卒業後、辯護士となり、それより中央政界進出となり、今日衆議院の議席を得る事、六回を算して居るが、その間前記の政務官をやり又その後、小田原商業學校校長をもやつて居た。人間としては正直で、そして圓滿の常識に加ふるに、思慮周密、頭腦もよく識見あり、抱負ありすが、一分の隙を見せぬ事、何れにせよ今一步大臣の椅子その榮世の前途を望むて議壇上に於いても實際の事務の上にも、一分の隙を見せぬ事、何れにせよ今一步大臣の椅子その榮世の前途を望むて決して人後に落ちるものではないのだ。何れにせよ今一步大臣の椅子その榮世の前途を望む



信望及及び力

大藏參與官

矢野庄太郎氏

今日四回を算するに過ぎないが、その當選回数を重ねるにつれ、大幹部の列に進み入ることは確實であらう。陣營に於ける珍しい風格を持つた政治家で、細心にして太ッ腹、濃厚謙直の一面、烈々たる氣魄を藏し、正と信じたことに對し、所信を斷行する事に於て躊躇するものではない。なか／＼の勉強家で、丸善邊りの新刊書は大抵眼を通し、その實力を養ふ事を忘れず、そして氣が向けば著述をやる「フランクスインプレシジョンの全貌」をはじめ「稅法案の全貌」等は好評を得たものである。そして彼は議會ごとに豫算委員となり、又た代表質問をやるが、その論旨に威力をもち、その貫録を見せてゐる。人間としては正直で眞面目で濃厚で、そしてジミの性格で、川崎卓吉が旺んなる時は顔色にも出さず、又た川崎に近づかず、逝去後はじめて親戚であると分つたなどは、彼の性格の一面が窺はれて床しいものだ。今七十四議會に於ては、彼は大藏政務官となり、政府委員の椅子に凭る事となつたが、更に彼のために新なる局面が準備されてゐる事は言ふ迄もないのだ。町田總裁はじめ櫻内農相、小川元商相等の信頼厚く、又た先輩政治家によつてその實力を認められ、又同僚間にも畏敬されて居るだけ、彼の大成は期してまつべきでもあらう。



—き閃の智理

鐵道大臣

前田米藏氏

熱情家で親分肌で、剃刀のような鋭い切れ味を持つて居た横田千之助の後継者としての彼が存在して居る。犬養内閣の商工大臣まで滑ぎつけた男で、原が政友會の總裁として光つて居た時、鳩山や、森格等とどちか早く大臣になるだらうかと當時政界人の話題ともなつて居たものだが、十數年後に於て森は外務政務次官を経て犬養内閣の書記官長、彼が一足お先に大臣となり、今や大政友會の政務調査會長、六十五議會では豫算委員長としてその頭腦の冴へを見せても居るさすかに實戰場を踏むで來て居るだけに何事に對しても場馴れがして論壇上にも實際の事務の上にも一分の隙を見せた事がない。従つて政治家としても辯護士としても優秀なる存在であると言ふをまたないのだ。横田は矮少短軀、そして時々臺灣坊主にかゝつて風采まことに可ならざるものがあつたがしかし政治的貫祿に於て、度胸と思慮との點に於て、その切れ味の凄かりし點に於て、當時政友會中、彼に比肩するもの少く、されば「横田の後に横田なし」と取り沙汰されても居たものだ。従つて世間の人は彼前田を以て横田の後継者となし、彼れまた横田の後継者たらんとしたものであつた。何處までも熱情家であつた横田に比し彼は冷い理智を藏す男である、それであつて彼より受ける感じは頗る好く小肥りの温顔に眼を細うして他愛なく誰でも無造作に語り出す彼は民衆に欣慕される政治家としての資格は十分に準備しても居る。従つて黨の大幹部や同僚間の折れ合も好くそして深き信望をつながれ、横田が死んでも、彼に政治前進の悩みなく遂に大臣の椅子を奪ち得た男である。

言ふまでもなく彼前田は政友會では、鳩山一郎と共に關東が生むだ俊英でもあつた。そして將來の大政友會を背負つて起つだらうと言ふ事も自ら一致して居たものだ。無論年齢から言つても政感から見ても兩者殆んど相似たものがある。しかし性格上から見れば、その異なりたるを發見するに苦しまないだらう。何んと言つても鳩山は華手で何處かポツとして居るところあるに反し彼は何處までも堅實で地味でそして政治的妥協力がある。前にも言つた如く、彼は理智を多量に包含するも決して熱情を失して居る男と言ふのではない、人に頼まれれば何處までも人の面倒を見る一種の俠氣を有し世故と人情の表裏は尤もよく彼の知るところで何處までも民衆的で簡單にもい解る男である。殊にテンポの早い時代の推移をヨクのみ込んで絶えざる研究と準備とを缺かさない。従つて彼の聲望は大政友會中その随一とまでは言われないがそれに近く、殊に手腕と言ひ識見と言ひ氣魄と言ひ黨内にザラにある人間でない事は言ふまでもない事である。政黨人として彼が政治を以て彼の生命の唯一最大の對象として居るに不思議はないが、しかし彼は政略家ではない、極めて坦々たる憲政の常道を歩まんとして清虚高簡なる風儀を以て政治をやるところに彼が生きて居る。そして經世済民その志を天下國家に持つ優秀にして善良なる政治家でもある。



才腕と力量

外務政務次官

清水留三郎氏

彼は、はやくから政務官候補者中有力視されてゐたものであつたが、平沼内閣成立と共に幾多の先輩同僚を凌駕して茲に外務政務次官の椅子に凭る彼を實現したのである。彼は熱情に燃ゆる赤城の山のふところに抱かれて育つた上州ツルコで今日衆議院の椅子を獲得する事六回に及び、その政治將來を刮目されてゐる民政陣營に於ける領袖である。彼は早稲田大學卒業後、米國ワシントン州立大學、同シネソタ州立大學に學び、マスターオブロースの學位を受け、又北京に於て支那語を研究し、爾來支那事情の調査になか／＼の外國通である、かつて衆議院を代表して南支南洋を視察した事もあり又萬國議員會議に列席した事があつたが、彼の立派な外國語は一行を餘程心強く感ぜしめたもので、殊に彼のテンプルスピーチなどは本場の外人に舌を巻かせたと言ふことは、當時衆議院から一行の世話役で參加した事務官が語つてゐた事を記憶してゐる、第七十三議會では代議士會長をやり、昨年の秋各派幹部を揃へた滿ソ國境視察に出懸け歸途單獨で北支蒙疆方面の視察を終へ歸朝したものである。才腕、力量、殊に度胸あり、闘志あり、議政壇上の闘士で民政陣營中なか／＼の雄辯家である、昨今彼の聲望は日一日と加はり政治家としての貫録は立派である。されば群馬縣は彼の今一步の榮譽のため祝盃を揚げるの日が近づきつゝあるのである。



官界出身の珍

文部政務次官

小柳牧 衛氏

文部政務次官の椅子に凭る彼である。任官前までは民政陣營にあつて、その黨資部長をやつて居たが當選二回を算するに過ぎないけれども、町田總裁はじめ首腦部の信頼厚く名聲日に加はるの概があつたものだ。彼は東京帝大法科大學政治學科卒業後、官界に飛び込み次第に累進して青森、福島、長崎、兵庫の各縣知事に歴任し、岡田内閣の時官界に見切りをつけて中央政界進出となり、新潟縣より出馬し天晴れ衆議院の議席を贏ち得たものだが、その間新潟市長となり、第二回の選挙後再度その市長に所望されたが、自分は何處までも政治家として國家のために盡す一途あるのみと決意して新潟市長を斷つたものである。頭腦も好く識見と力量、官僚出身仲間にはザラにある人間でない事は今更いふまでもなく、殊に濃厚の一面烈々たる氣魄を藏し正と信じた事に對し所信を斷行するに躊躇するものでもないのだ。即ち彼が多くの官界出身者中斷然頭角を現はしてゐる所以であらう、従つて彼が次第に當選回数を重ねるにつれ自ら大幹部の列に進み入るであらう事は確實となりいよく政治家としての培を忘れず努めて倦むところなかつたならば大臣の椅子に滑ぎつける事は彼に於て至難でないといふまでも居るのだ。人間としては正直で眞面目で、殊に情義に厚く、然諾を重んずる立派な紳士である。そして寡黙實行、腕と頭の併行した政治家で、常に志を國家國民に持つ優秀の政治家である。



陣營の快男児

海軍政務次官

松田竹千代氏

平沼内閣の成立と共に、海軍政務次官の椅子を勝ち得たものである。任官前は民政黨陣營に於ける遊説部長でその将来を囑目されて居たものだ。多年に於ける外國生活はその陣營に於ける外國通たらしめて居る。

彼は紐育大學に於て経済學を修め乍ら紐育日本人會幹事に擧げられ、又紐育市に於て日本職業紹介所を創設、又英京ロンドンに於て社會事業を研究し歸朝後我國最初の隣保事業たる東京府有隣團理事として之が經營に當り又労働者簡易宿泊所所有隣勞働クラブを設立經營した事もある衆議院の議席を贏ち得る事四回、その間國際觀光委員會委員被仰付又列國議會同盟會議に參列し歐米各國を視察し昨年も單獨歐米の視察に赴きいよいよ智見を擴めその暮歸朝したものだ。党内に於て高橋守平、多田満長と彼とは三羽鳥と稱され年齢と云ひ當選回数と云ひ又識見、力量抱負よく似たものである。それが高橋は近衛内閣の政務次官を贏ち得、又多田は廣田内閣の參與官を獲て居るが彼の一度も政務官の経験なしに今日に到つたものだ。それが平沼内閣成立に當り前二者が踏むだ參與官の段階を一氣に飛び越して政務次官の椅子に凭つた事は彼の當然迎るべき順路とは云へ一寸面喰はしたものだ。頭腦もよく烈々たる氣魄を藏し正を踏むで恐れずとの信念に燃えて居る。又なか／＼の雄辯家で議壇上の雄である。従つてその政治將來に對し立派に折紙がついて居る政治家であると共に更に彼の爲なる局面が準備されもして居るのだ。



情義に厚い男

陸軍參與官

中井川浩氏

平沼内閣の成立により民政黨から推薦され陸軍參與官の椅子を贏ち得た少壯政治家である。彼の參與官は既に近衛内閣成立と共に實現する事となつて居たのであるが地盤關係や人繰りの都合で之を他に譲り自らは黨に止り黨本部と總裁及びその他重要方面の連絡に滿身の努力を傾注してゐたものでもあつたのだ。先輩政治家をはじめ同僚や後輩に畏敬され敬愛される素質を有する政治家で將來の大成を信ぜられて居るのだ。衆議院の議席を有する事三回を算するに過ぎないが識見力量等彼の今後に期待する者の多い所以であらう。到つて重厚で温厚で又一寸掴みどころのないやうな一面、烈々たる氣魄を藏し所信を斷行する事に於て決して人後に落ちるものではないのだ。そして簡單にも、解る政治家で、親切で正直で、眞面目で情義に厚く親分肌のある男で、そして彼の二十五貫に近い體格とそしてその童顔には民衆的魅力があると言ひたい。彼は元首相にして鐵相たりし原脩次郎氏に愛され又原氏逝去後は町田總裁の秘書として愛重され川崎卓吉が文相及び商相となるに及んでその秘書官となり誠心誠意川崎氏のために働いた事は今更記すまでもない事だ。何れにせよ次回に來るものは政務次官の椅子であらねばならぬ茨城縣は好い政治家を持つてゐると共に彼が原や川崎の遺志を繼いで中央政界に雄飛するの日もソロ／＼近づきつゝあるのである。

國民同盟總裁

安達謙藏氏



——世界の形勢は激變した。政黨政治家は、世の激變に處すべく猛省一番、根本的方法を考へねばならぬ、こゝらで政治家にしてその首を廻らさねば國民の前に清算されてしまふ。——それに滿洲の問題は愈々重大性を帯びて來た、國際聯盟は最後の通牒に等しい要求を我國に向つて提示して居る國論は沸騰して來る、財界は不安に、思想は矯激に向ひつゝある、少壯軍人の間には議會政治の無能を憤慨して容易ならぬ氣色を示すものありと傳へられて居る：：然るに唯徒に憲政常道論の形式に囚はれて、政權を反對黨に譲つても時局は到底安定はしない、我黨も過去より脱却し政友會も行き掛りをすて、國家の爲めに互に歩み寄ることは出來ないか虚心坦懐、誠意を披瀝して時艱を救ふことは出來ないか——と約九ヶ月前、今日あるを豫見して政民の協力内閣を主張し國難打開の決意に出た當時の内務大臣安達謙藏の心算は全く民政黨の爲めには公黨の面目を明かにし、更生展開する所以なりと信じたからでもあらうか。これ

が彼安達の常識と経験から割り出されたるその當時に於ける政界對策でもあり又協力内閣組織に對する見解でもあつたと言ふのだ。さりながら彼の主張する協力内閣論は破れたのである。

そして若槻内閣の總辭職に伴ひ犬養内閣が成立して、彼はその責を負ふて民政黨を脱し多年の同志と袂別したのである。しかしながら彼安達は脱黨後と雖も、時機を見て復黨したい、又彼の周囲の乾分たちも機により時により、安達復黨運動を開始して幹部に迫つたものである。若し安達の復黨が叶はぬ時は安達を總裁に擁して新黨を樹立したいと計劃して居たのであるが遂に安達の復黨を見ず安達とその一黨は勇敢なる新黨樹立の前進となり茲に第三黨たる「國民同盟」の出現を見たのである。聰明を語る廣い額と、鞏固なる意志を裏書するかの如き鼻と口と、そして冷徹そのものゝやうな靜かなる眼、これぞ實に苦闘また力戰を重ねて倦むことなく、當年にあつては加藤總裁を補佐し政權をめがけて離れゆく人心を素れざるにつなぎ、改選ごとに揮ふ敏腕は直に選舉の神をもつて呼ばれたものだ。言ふまでもなく彼の特質は或は表裏の事より裏面の萬策にあるれどしかも世間の情理をよくわきまへ、人の面倒も人一倍見て居たものだ。何れにしても新黨は今に至るまで名を數へて居る。民政黨が彼を一枚失つたことは何言つても一大損失であつたと言へることなす。



信賴と期待

大成する青年政治家

伊豆富人氏

昭和政界に於ける青年政治家中彼の将来に對し囑望するもの、多い事は彼の眞價が次第に認められつゝある證在として誠に欣快に堪えぬものがあるのだ。頭腦も好く思慮周密、殊に先輩に對し敏達で人と交はつて寛厚で、その陣營中優秀なる存在を有して居る。殊に非常時局に對しても正しき認識を持ち大衆の政治要求に對して準備を怠らないのだ。彼は早稲田大學政治科卒業後九州日日新聞記者より東京朝日新聞記者となり御大安達が選信大臣、内務大臣となるに及んでその秘書官、その後九州日日副社長となつた頭と腕の併行した政治家で、圓満の常識に加ふるに思慮周密、殊に政治家として責任感強くそして若いに似合はぬ抱擁力があつて簡單にモノの解る男である。彼は何事でも己れを無にして、國民同盟の礎を強化する事のみ專念し常に不斷の努力と誠意とを以て黨内親和の楔となり一方よく安達總裁を補け兩者相許し相扶けるところ恰も父子の如きものある事政界の佳話である。今や彼は衆議院の議席を得る事三回を算するに過ぎないが、次第に當選回数をつむに從ひ昭和政界に強き存在を印するであらう事は今や黨内外から信ぜられもして居るのだ。熊本縣からは將來大成する好い代議士を中央議會に送つて居るのだ。



將來ある政治家

司法參與官

濱野徹太郎氏

民政黨に於ける中堅幹部である。院内總務も既に終へ来る四月の黨役員の改選には本部總務の有力候補者に數へられもして居たものである。平沼内閣の政務官として推薦される事は中井川の陸軍と共に動かぬものとされて居たゞけに政務官の發令と共にその適在適所については誰れしも異存のないところでもあつたゞけ、その將來を囑望されて居る政治家である。人間としては正直で眞面目で、そして人格的で、頭腦も好く雄辯家でその謹直の一面、烈々たる氣魄を有し正と信じた事に對し所信を斷行する事に於て決して人後に落ちるものではない。民政陣營に於ける法制家で、政治家としても辯護士としても優秀なる存在を確保して居るのだ。彼は中央大學法科専門部卒業、十數年間小學校訓導をやり、自ら辯護士試験に合格、辯護士となり、神戸辯護士會長をやつて居た事もある、そして中央政界に進むで以來今日衆議院の議席を獲る事四回に及び政治家としての將來を約束されて居るのだ。何れにせよ兵庫縣は彼の如く有力なる政治家を中央政界に送つて居ると共に次第に近づきつゝある彼の榮世に對し、祝盃を擧げる時がキツト来る事は、今や院内外信じて疑はないところでもある。





練達の政治家

鐵道參與官

青木亮寬氏

民政黨陣營に於ける練達堪能の政治家である、滋賀縣の選出で、衆議院の議席を贏ち得る事今日五回を算してゐるだけに、今回推薦された鐵道參與官の椅子は彼にとつて或は満足すべきものではないと思はれるが、しかし人事の事は思ふに委せぬ殊に政黨生活の事であれば暫くの間がまんが必要とされて居る。彼の有する實力と信望は既に町田總裁をはじめ首腦部筋に認識され次回の政務次官は誰れしも疑はぬところとされて居る。人間としては正直で、しかも圓滿の常識、その濃厚の一面、正と信じた事に對しては所信を斷行する事に於て毫も躊躇するものではないのだ。殊に戰時下、非常時局に對する正しき認識を缺かさず眼中國家人の幸福増進に向つて代議士としての職務を勇敢に遂行することを忘れないのだ。彼は大阪府立高等醫學校卒業後、暫らく刀圭界に活躍してゐたが後社團法人水口病院長となりその間滋賀縣會議員、水口町長、滋賀縣畜産聯合組合長、甲賀郡自治協會長同農會長、甲賀郡農業組合長に擧げられて居る。何れにせよ彼は民衆の温かき抱擁によつて健全にしかも優秀に肥とつて行かうとして居る政治家であるだけに、いよいよ政治家としての培を忘れず努めて倦むところなかつたならば、その大成は期してまつべきでもある、滋賀縣からは彼の如き好い政治家を中央政界に送つて居ると言ふべきだ。



關志滿

議政壇上の雄

砂田重政氏

昭和九年一月二十七日の豫算總会で、彼が質問の矢面に起たせ痛烈なる質問を發するその態度の堂々たるげにそれじや政友會三百に近い代議士中關志滿たる議院は彼の議席を永久に失はしめまいであらう、兵庫縣の選舉民は好い代議士を中央に送つて居るのだ。彼は中央大學卒業後判檢事登録試験に合格、司法官補に任ぜられ後辯護士となつて中央政界の躍進となつたものであるが、その後彼は都市計劃中央委員會委員、又農林參與官に任ぜられ農系委員會委員、肥料調査會委員、人口食糧問題調査會臨時委員、小作調査會委員、米穀調査會委員に仰付、殊に大養内閣の時農林政務次官に任ぜられ、米穀委員會、關稅調査會の各委員に仰付、今や政友會に於ける領袖でもある。此の分で行けば將來大臣まで押し進み行くであらう事も一般から信ぜられもして居るのだ、辯舌は達者口を開けば何事かを民衆の頭に植つけずにはおかね、頭腦も好く、殊にその才腕、力量、敏捷果敢、今や政治界何の方面に廻しても立派の流行見でそして腕利きでもある、しかも世間の情理をよくわきまへて居る彼の政治的將來は端睨をゆるさぬものある事は一人彼を知るもの言ふところのみではないのだ。



大巨級の政治家

衆議院豫算委員長

櫻井兵五郎氏

櫻内幸雄が平沼内閣に農林大臣として入閣したので、次期大臣の候補者は彼を始め一二の者を数へるしかないのだ。彼が大臣級の政治家として又た近き將來大臣の椅子に就くであらう事は、今や民政黨内の常識として誰しも信じて疑はないところでもあらう。

本七十四議會は彼は戦時議會下に於ける九十億と言ふ膨大豫算を厳正に審議すべき衆議院豫算委員會の豫算委員長としての光榮ある椅子を贏ち得た政治家である。彼の腕の見せどころは眞に今議會の活躍如何によるところの多いことは、今更記す迄もない事である。

彼はかつて民政黨政務調査會長としての存在を有してゐた事がある。努力精勵、頗る優秀の成績を示したもので名調査會長として、今尚ほ語り傳へられもして居るだけに、彼の今回の豫算委員長は眞に適材適所で、その重要椅子に彼を据えた町田總裁の深意も略ぼ想像が出来得るのである。彼が此の戦時議會を終れば當然彼に來るものは幹事長の椅子か、或は有力なる大臣候補として

ての彼の存在が實現して、入閣の機會を待つ事となるかも知れないのだ。

何んと言つても現在彼の黨内に於ける存在實力は相當のもので、タトへ彼に反對の態度を有し居る黨人がありとしても、彼の實力及び黨歴の前には徒らに効果の薄きを感じるのみであつて、彼の今日の黨内に於ける信望及び實力の漸増は注意すべき事である。言ふまでもなく、政黨人として彼が政治を以て彼の生命の唯一最大の對象としてゐる事に不思議はないが、しかし彼は憲政の常道を歩まんとして、議會政治のため滅私奉公、飽迄國家のため奮闘する事を忘れないのだ。

従つて彼は戦時下に於ける内外政策に對し正しき認識を誤らず彼の有する強靱の才能と清朗の心境とを以て戦時並に戦後の對策に政治をやるところに彼は生きて居るのだ。人間として正しき眞面目さを失はず、彼の親孝行は有名のものである。殊に政治家として明日の政治を知ると共に時代の政治意識を把握する能力とこれを實現する戰鬥力とを具備する事である、そして彼には統率の頭もあれば、温かき抱擁力もある、今や黨内の人氣は彼の頭上に集まらんとして居るだけ今一段の活躍を望むでゐる者の多い所以であらう、何れにせよ、彼の出身地石川縣は彼の榮冠のため祝盃を擧げるの時が近づきつゝある事を忘れてはならぬ。此の意味に於て石川縣は多幸である。



原敬に折る紙

前 遞 信 政 務 次 官

牧 野 良 三 氏

四〇

前遞信政務次官牧野良三の政友會に於ける存在は、黨の領袖であると共にその中央政界に於ける政治的生命は、いよ／＼萬丈の光彩を放ちいよ／＼輝々たるものなる事は萬人等しく信ずるところでもある。彼は刑法の權威牧野英一を兄として中橋徳五郎を背景として中央政界に躍進以來、當選七回を算するに過ぎないだけに儼然と抜き鮮かな出世振りでもあらう。

政黨人ではあるが花も實もある氣品ゆたかな才人で、特に演劇には頗る趣味を持ち一隻眼を有しても居るだけ、ともすれば枯渴木石に等しい政客の間に於ける掘り出しものでもある。彼が辯舌の雄者である事は定評があるが、特に彼の演説には抑揚頓挫に富み第三者の追隨を許さぬものがある。従つてその内容の豊富なる奇警百出その取材の多方面なる事については萬人等しく驚異の眼を睜るのである殊に外交問題から財政經濟社會問題、實に手に入つたものである。惟ふに今

後の政治界に、殊に新興政黨と對抗すに適する者は政友會中彼を措いて他になく彼の新思想は以てよく社會的諸政策の問題が協議せらるゝ場合、彼の貢獻するところけだし尠少ではないであらう。

彼は東京帝大法科卒業後、文官高等試験に合格遞信省爲替貯金局證券課長、通信副事務官を最後として役人生活に見切りをつけて、中央政界に乗り出し中橋文相の秘書官兼文部省参事官となり、齋藤内閣の遞信政務官となつたもので、役人はして居るけれど役人臭味なく何處までも民衆的で、なか／＼しつかりした男である。原敬が統率した政友會の黄金時代、牧野用うるに足ると中橋狸庵を始め原敬にすつかり折り紙をつけられて來た男だけに頭腦明晰、才藻と度胸、立派な政治家でもある。しかも正を踏むで怖るところなしとの信念に燃ゆる彼は何んと言つても鐵中の錚々たるもので、しかも政友會の陣營にあつては中堅派中の新智識でもあり闘志満々たる議政壇上の雄である。殊に彼は正直で眞面目で政治家の通弊として世上に醜を傳へるやうな振舞は薬にしたくもない、されば彼の非常時政界に於ける信望こそ、政友會の大に讃するものであると共に彼の存在こそ一服の清涼劑でもあらう。



前農林大臣

島田俊雄氏

島根の天地はともすれば、出雲大社を除いて忘れられようとするやうなこともないではないが、思ひ一度び近世政治家の出生地の事に致せば、先づ第一に其指を屈しなければならぬのは民政黨の總裁たる若槻禮次郎を産み、前商工大臣たりし俵孫一を育ぐみ又前法制局長官にしていづれ近き將來政權が政友會に落下した時、必ず大臣の一椅子に凭るであらうと一般から信ぜられもして居る彼を有して居る事である。普選施行前に於ける島根は、彼と依との一騎打ちで政争激甚を加へる點に於て熊本縣に次ぐの地位にあつたのだ。従つて彼は甲を擁して一歩も譲らじと頑強れば一方では乙を率じてその牙城に迫り堂々相争ふて死なば辭せざるの概があつた、されば憲政會に依を有し政友會に彼を有して居る島根縣は、いづれが早く大臣の位置を贏ち得るかとその最良々々に従つて一方の成功を祈つて居たのであるが、先づ政運俵に組してか、先づ一足早う俵が大臣の椅子に据わらば事となつたのだ。さりながら彼れ島田は俵の明治二年

の出生に比し明治十六年産と言ふ隔たりを持つのである。決して急ぐ必要はない、焦る事はないのだ、それよりは政友會の總務室で大臣學でも勉強せよ。必ずや彼の榮冠のために祝杯を舉ぐる時がきつと來るのである。政友會に於ける事實上の筆頭總務であると共に議政壇上の雄でもある満身の覇氣をこゝにあつむるかと思へる彼の顔は政友會の隆昌に讃するもので政友會が今日彼を有する事はなか／＼の強味でもあらう。頭腦が好くて手腕は俊敏、殊に議場策戰の妙に通じ、六十五議會勢頭軍民離間問題に端を發した秘密會に於ける凄味は彼なればこそそのタンカも千兩の價値に富み、決して小銃丸ではなく砲門の轟きであつたのだ。彼は東京帝大法科大學政治學科卒後東京市教育課長勸業課長兼臨時市勢調査局長をやり在職中英國に遊び歸朝後、早稲田、中央、日本、法政の各大學講師となり又清國雲南省法政學堂講師に聘されそれより中央政界躍進となつて今日當選六回、その間臨時教育行政調査會、教科書調査會、衆議院議員選舉革正審議委員會、法制審議會、神社制度調査會資源審議會、國有財産調査、簡易保險積立運川委員會、文教審議會臨時ローマ字調査會の各委員を被仰付られた事もあり今や政友會中鏘々たる存在を齎ち得ても居るので。



光る將來

純情優秀の青年政治家

伊藤 藤五郎氏

民政黨陣營に於ける少壯政治家中、將來の大物を以て目されてゐる彼である。無論町田總裁を始め首脳部筋の信頼厚く、現在民政黨の常任幹事として潑刺たる活動を續けてゐるのだ。次第に當選回数を重ねるにつれ大幹部の列に自ら進み入るであらう事が信ぜられもして居るのだ。即ち彼の少壯にして今日の存在を贏ち得てゐる事は、汝々として倦まざる彼の努力の賜たるは言ふまでもなく、次回の二回當選頃には彼は政務官候補者中有力なる存在として數へられる事は今や黨内外信じて疑はないところであらう。去る第七十三議會に於ては彼は院内幹事として活躍を示し殊に農業保險委員として冷害地農民の味方となりその目的を達し又た兒童の愛國士心の養成と建設心の涵養はせて學校基金本財産確立のため全國小學校に一町歩の小學林を無償で下附せしめる案を提出しその通過に努め遂にその努力が報ひられてこれが實現を見てゐる事は畢竟彼の精進努力の結果に外ならないのだ頭能もよく、辯舌も達者だ、そして辯護士としても優秀にして純情の存在で、先輩には敬愛され同僚間の氣受けも頗る好く又た新聞記者方面にも評判の好い青年政治家である。中央大學卒業後高等試験行政科並に司法科合格したのが彼の二十幾歳の時でその秀才なるが窺はれ、又た郷里山形から衆議院選舉に打つて出た時、わづか二三千圓の選舉費用で天晴れ當選の榮冠を勝ち得た事は全選舉界の珍奇でもあつた。



熱心と志願

若手代議士中の傑物

山田 順 策氏

衆議院の議席を贏ち得る事未だ一回を算するに過ぎないが、既に黨最高首脳部筋にその手腕力量を認められ、その政治將來を矚目されてゐるのである。従つて彼が當選回数を積むにつれて大幹部の列に自ら進み入ることも今や確實とされるに到つてゐる。よく政黨の要諦を心得てゐる、そして明快なる頭腦を有し先輩に對し敏達で人と交つて寛厚である。親分肌で若手代議士には珍しくも抱容力に見るべきものあり、殊に戦時下の非常時局に對し正しき認識を怠らず今や民政陣營に於ける青年政治家中の大物でもあらう。正を踏むで怖れずとの信念に燃え、その氣魄と熱情とは、彼の存在をいよく明確ならしめても居るのだ。既に黨にあつては、院内外の幹事をつとめあげ第七十三議會には、國家民人の利福を念としてその職務を勇敢に遂行したのものである。さりながら彼の活動の本舞臺はいよくこれから展開されて行くと共に彼れ山田の政治前途には更に新なる局面が準備されつゝあるのである、何れにしても彼は清朗の心境と無限の活力とを以て優秀の仕事をする政治家であると共に今後の彼に興味と期待をもつものゝ多い所以であらう。静岡からは好い代議士を中央政界に送つて居る。



男るあ力行實

しつかりした政治家

木村 浅七氏

民政黨に於ける中堅に属する代議士である。衆議院の議席を勝ち得て未だ二回を算するに過ぎないが、既に政黨の要諦を心得、近來メキメキとその存在を明確としてゐる。即ち町田總裁始め首脳部筋の信頼厚く、當選回数

を重なるにつれ、次第に大幹部の列に自ら進み入るであらう事は今や黨内外の信するところである。然諾を重んずる立派な紳士で、人間としては正直で眞面目で、頭腦もよく識見あり抱負あり殊に戦時下に於ける正しき時局認識を持ち正と信じた事に對し所信を斷行する事に於て決して人後に落ちないのだ。彼は東京高等商業學校卒業後、郷里にあつて足利町會議員を振り出しとして地方議會に進出し、栃木縣會議員同副議長に擧げられ又市會議員となり一方銀行、會社の各重役となり、實業界に無限に延びる羽翼を持つて中央政界に轉出したのであるが、従つて議會にあつては得意の經濟政策より商工政策、殖民政策、口を開けば必ず民衆の頭に何ものかを印刻せずにはおかぬ熱と力の持ち主でもある。頭腦もよく、力量もあり、そして何事に對しても場馴れがして演壇上に於ても實際の事務の上にも一分の隙を見せた事なき腕と頭の併行した堅材である。彼は海外織物市場視察のため比島、濠洲、英領印度、ビルマ海峽殖民地を巡遊した事もある。何れにせよ彼は政治家としても將來伸びる男であると共に、彼は次期政務官の候補者中に數へられもして居るのである。栃木縣からは優秀の代議士を中央政界に送つてゐるのだ。



魄氣と情熱

將來大成する政治家

森田 重次郎氏

民政黨陣營に於ける少壯政治家中、その尖端に位する政治家で、當選回数積むに従ひ大幹部の列に進み入る事は確實とされてゐる。性は濃厚で寛容であるが、その一面烈々たる氣魄を有し、正と信じた事に對し所信を斷行する事に於て決して人後に落ちるものでない、そして戦時下に於ける非常時局に對し正しき認識を怠らず、今や戦後政策に對し政治家として職務の遂行に努力を傾注して居る。教育界の出身で、大の國粹論者、小學校の訓導や校長先生をやつてゐた事もある。そして辯護士試験に合格して現に辯護士の業務に従事してゐるが、辯護士としても優秀の存在である。頭腦もよく、辯舌は達者で、議政壇上に於ける雄者である。圓滿の常識に加ふるに思慮周密、腕と頭の併行した男で、彼の中央政界に於ける活動の舞臺は眞にこれから彼のため新なる局面が準備されもしてゐるのである。交際へば交際ふほど味の出る政治家で、殊に人情の表裡は十分知り抜いてゐるだけ人の面倒や世話はなかくよく見てもゐる、従つて町田總裁始め首脳部筋の信頼厚く然諾を重んずる立派の紳士で人格的に非難の打ちどころのない有爲の政治家で青森縣からは優秀の代議士を中央政界に送つてゐると共に衆議院は彼を永久に失はないであらう。何れにせよ將來の大成は期して待つべきである。



大級臣の政治家

幹事長の椅子

勝 正 憲氏

九州に於ける民政黨の大物で、そして民政黨本部に於ける首脳部である近衛内閣の第七十二議會では彼は豫算委員長として戦時豫算の通過に努力し次で第七十三通常委員として戦時豫算の通過に努力し、殊に本會議席上彼の委員長報告に於て、聲を大にして政府に警告するところさすがに彼なればこそと頷かれるものがあつたのだ。その堂々たる態度愈々迫るところなき論旨の進め方大政黨の代表としての貫録を十二分に示して呉れた事は、當時の新聞通信を通じて明かなことであらう。

言ふ迄もなく今後民政黨から大臣を出す場合、その候補者として彼が有力なる存在を有して居る事は今や黨内外の常識で誰れしも異存のない事とされもして居るのだ。彼は東京帝大法科大學卒業後税務監督局事務官を振り出しに松江、長崎、鹿児島、長野、仙臺、東京各税務監督局長、一函館税關長、大藏書記官、同参事官、海外駐劄事務官を最後として官界から政界に轉向して茲に

衆議院の議席を贏ち得る事五回、その間大藏参事官、商工政務次官となり先に東京市助役をつとめた事もある。町川總裁の信頼厚く、今回の役員改選に際しても、幹事長の椅子を繞りていろ／＼の運動があつたに拘らず、總裁は一切これ等の自薦他薦の運動をしりぞけ、堅實第一主義の見地から最も手堅い政治家として彼を幹事長に抜きその重要地位に就かした事は、如何に彼が、何事に對しても一分の隙を見せた事なき堅材として、又復、議政壇上に於ても、實際の事務の上にも頭と腕の併行した政治家である事の證左でもあるのだ。

殊に非常時局に對しても認識を怠らず時代の政治意識を把握する能力とこれを實現する戰鬥力とを有し、しかも世故と人情の表裡は政黨生え抜きの黨人よりははるかに心得て居るのだ。人間としては交際ふに従ひいよ／＼味の出る男で、長らくの官界臭味もみじんも鼻につかず謹直のその一面、飲むでは一升の酒、天下國家を論じて餘すところのない痛快男兒でもある。正を踏むで怖るところなしとの信念に満ち／＼た彼がその税務監督局長時代、天下富豪の脱税を憎み之を槍玉にあげてさすがの富豪連を顔色なからしめた事は餘りに有名な話であるが茲には詳記せぬ。



賈祿を示す

衆議院議長

小山 松 壽氏

今夏の臨時、特別の兩議會に於て衆議院議長としての貫祿を十二分に示しても居た、識見、力量、手腕、殊に先天的な彼の聲量が如何に衆議院議長として役立ち異彩を放つて居るが、今日、衆議院の議長としてけだし、はまり役の彼である。一體彼の黨歴及び今日迄に於ける努力よりすれば夙に大臣の椅子に就いて居なくてはならぬ地位に在る政治家である。頼母木桂吉と雁行して居た華かな時代が過ぎた時前者は逓信大臣たる光榮の椅子を贏ち得ても居た、そして今度は小山だらうと思はれる時、後輩の小山郷太郎が商相の椅子を占め、小山は無役で何れの日に、彼の門に光榮の訪れあるや、彼を知る多くの人は彼の爲め同情の念禁すべくもなかつたものだ。イヤ自分は町田總裁にすべてをまかして居るのだ。自分が積極的に働く事は好まないタトへ大臣顯官にならなくても國家に御奉公する事には變りはない」と自らは池中の龍と潛み、徐に風雲を觀望せるかの感を與へて居たものであつた。しかし彼はその昔苦節十年の報られた憲政會内閣の時、加藤高明總理に拔擢されて町田農相(現民政黨總裁)の下にあつて農林政務次官となり、よく町田農相を補けて優秀なる成績を示し、また濱口内閣の時は、藤澤議長の下に衆議院副議長となり、その鮮かなる手腕を示し、あの

亂調子下の議場に於て議長をたすけて立派に議事の進行をはかつた事は當時一般から認識されたものであつたが、大養内閣成るに及んで副議長を辭し、解散を豫想されて居たその議會に於ける民政黨の院内筆頭總務としての重責を擔ひ、爾來幹事長を経て黨の樞要部にあつたものである。尤も民政黨と彼との因縁は古き昔に遡つて見ると昨日や今日の小山でないで、従つて彼には政黨人としての彼れ獨特の境地が拓かれて居る事はこれまた當然の事であるのだ。さすがに戰場往來の政治家だけに何事をするにも場馴れがして居る、小山と三木は憲政陣營に於ける華かなる騎士として、その鬪争心の旺盛なる、その馴引きの巧妙さ、政友會の陣營は彼等のためよく攪亂されたものでもあつた。當時の小山松壽が、昭和十二年の政界には新議事堂の議長の椅子に納まつて、しかも上品に材つた白髪の頭を振り立てながら、四百の頭腦を見下しつゝ、御靜肅に願ひますと議場をたしなめる堂々の態度、けだし當時を顧みるの時、感慨に堪えぬものがあるに違ひないのだ。人間として眞面目で正直で、血あり涙ある民衆政治家であるが、その一面秋霜の趣あり正を踏むで怖るところなしの信念に燃えて所信の斷行に躊躇するものでない、何れにせよ彼の如きは中央政界に於ける一方の巨星で、ます／＼今後に於ける彼の榮世を望むものは、ひとり彼を中央政界に送り出した選挙民のみではないだらう。



前北海道長官

書生肌の熱情家

池田

秀

雄氏

東京帝大法科大學英語科卒業後、文官高等試験に合格先づ東京朝日新聞記者を振り出しとして後、招殖局書記官、長野、廣島、宮城各縣理事官、岐阜縣警察部長、外務事務官兼内務書記官、宮城、廣島各縣内務部長、秋田縣知事、朝鮮總督府殖産局長、北海道廳長官を歴任し、江木翼のすゝめもだし難く、北海道長官を解履の如く捨て、京城日報社長となりそれより方向轉換即ち、中央政界の進出なつた彼である。現在では、佐賀縣を背負つて起つ立場に置かれて居るので、從來、地方遊説に黨勢擴張に、席暖なるを知らざる勵精ぶりである。地方官として半世を送つたもの、常として見るところは、鼻もちならぬ官臭であるが、わが池田に限つてかゝる陰翳はとこそ探がしてもないやうになつたほど餘程民衆的である。國士肌の男で、その志は常に國家にもつて居るは言ふまでもなく、又簡單に話のわかる通人でもある。江木翼は矢張り眼が高かつたとはよく院内外で噂せらるゝところでもある。辯舌に熱があつて、口を開けば民衆の頭に何もかを印象せしめずには置かないのだ。そして政黨生活幾ばくも経たないに拘らず政黨の要諦を心得、内外頗る好評を得て居る彼でもある、正を踏むで恐るところなしとの信念に燃え、敢て最高幹部に一瞥を送らず、自らは永遠の青年を以て任じそしてなかゝの硬骨漢でもある。



前大藏參事與官

風格を持つ政治家

中村

三之

丞氏

民政黨に於ける領袖である。近衛内閣時の大藏參事與官で、今や民政陣營に於ける財政通でもある。京都が産むだ優秀なる政治家で、彼れの政治前途に對して新たな局面が準備されて居る事は今更申す迄もない事だ、頭腦もよく、識見あり抱負あり、温容の一面烈々たる氣魄を藏し、そして人間として正しき眞面目さを持つ民政陣營中一種の風格を持つた政治家である。その昔、早稻田大學時代、彼はその雄辯會を牛耳つて居ただけに、なかゝの雄辯家で、大藏省に居る時はよくラヂオや講演に、その雄辯を放送したものであつた。彼は邊幅も飾らねば上長に媚びもせぬ、いつも變らぬ野人であつてしかも名利に頗る恬淡、正を踏むで恐るところなしとは常に彼が心奥に湧いて居るところだ。なかゝの勉強家で、ヒマさへあれば丸善邊りの新刊者に眼を通して居る。往年東京朝日が議會人評論中彼を篤學の政治家として推賞したものだ。彼は刻々として移動して行く時の流れをよく呑み込むで、國民大衆の政治要求に對し、巧みに乗じ得る頭腦を準備して居る。けだし彼の政治將來は端現をゆるさぬものある事は、一人彼を知るもの、言ふところのみではないのだ。惟ふに彼の財政經濟に關する新思想は以てよくその諸政策が協議せらるゝ場合彼の貢獻する所はけだし尠少でないであらう。



情熱と志闘

知事出身には珍らしい

川崎 末五 郎氏

衆議院の議席をかち得て未だ二回の場敷しか踏むで居ないに拘らず既に政黨の要諦を心得、近來メキメキと其の存在を明かにして居る。前商工大臣川崎卓吉がその才力を愛し彼の牧民官時代から極力彼を支持し、彼また其知遇に感じ政界への轉向となり大に成事あんらとしたが彼が議席をかち得て間もなく川崎は櫻花

光つて居たと云つても彼は決して川崎の光りに蔽はれて居たと云ふのではない、そして裸一貫の男としての價値を問われても彼は實質以下に見られるやうな男ではなかつただけ、今では將來ある政治家として町田總裁始め最高幹部に信頼と期待をつながれて居るのである。彼は京都帝大

法科大學政治學科卒業後高文をパスしそれより彼の官僚生活は始まり福島縣知事を最後として政界進出となつたのであるが、官僚出には珍らしい闘志もあれば辯舌もあり、しかも世故と人情の表裡は政黨生え抜きの野暮の黨人よりはるかに民衆政治家の型にはまつて居る。しかも度胸もあれば抱擁力もある。非常時局に對する正しき認識を持つて居る正義の闘士でもある。即ち彼の政治將來が刮目に値し、また興味湧く所以であると共に今後の大成は期してまつべきでもある。即ち彼の此の意味に於て京都からは、優秀の代議士を中央政界に送つて居ると謂ふべきである。



官與參部文前

闘志機智雄辯

武知勇 記氏

民政黨陣營に於ける中堅代議士中、將來大物となる政治家である。よく新聞記者連や黨首脳部が集まつた席上の彼の噂が出る事があるが、誰しも彼の評は一致して、その政治將來を期待してゐる。頭腦もよく手腕、力量に缺くるところなく殊に彼の前進の武器としての彼れ獨特の雄辯宏辭はいよ／＼彼の存在を強からしめてゐるのである。去月、衆議院を代表して北中支に皇軍慰問使として特派されたが、その戦線慰問から歸るや否や郷里に於て戦線報告演説會をやつたが集まるもの一萬餘無論郷里に於ては未曾有の盛會であつたであらうが、けだし全國に於ても類例のない事とされて居る。彼の參與官時代はその期間がまことに短日であつたが、しかし參與官中の優秀の存在として内外頗る好評を博したものだ。従つて彼れ又た次期政務次官候補者に數へられてゐるのは當然の順路で、今後に於ける彼れの榮世を望むものはひとり彼を中央政界に送り出した選挙民のみではないであらう。言ふまでもなく、來春行はる黨本部役員改選には黨總務となる男である。既に先輩政治家によつてその實力を認められそして愛重され又た同僚間にも畏敬されてゐるだけ彼れの大成は期して待つべきでもあらう。けだし多士濟々たる民政黨陣營に於て特に彼を抜いて茲に評論するのも彼れが去る議會以來院內總務として常に第一線に起ち、實戰場を踏む主將として又た闘志、機智、雄辯を兼備する好個の戦士として廣く天下に認められて居るに因るからである。



彼と電力問題

前逓信大臣

頼母木 桂 吉氏

た。彼は國策の一として就任早々電力問題を提げて起つ事を忘れなかつた。即ち電力問題をこぞ庶政一新を使命とする廣田内閣の一大國策であつたのだ。さりながら此の問題は性質上、各政黨及び電力業者の間に最も強大に響き賛否兩論は到るところに繰り擴げられたものだ。殊に彼れの出た民政黨に於てさへ議論纏まらずその委員會は謂る頼母木案に對し大修正を施すの餘儀なきに立ち到つた事は今更申すべきでないだらう。されど彼は飽迄自案を固持して下らず非常な覺悟を以て奮闘をする事を忘れなかつたものだ。されど中途にして廣田内閣が自壊しては、さすがの彼も悲憤の涙をのむで野に下らざるを得ず、彼は心中自ら慰むるところあつて黙々として明快ならざる第七十議會を迎へたのもあつた、トエ電力案は遂に實現しなかつたと言へ、彼が此の案を以て國家及び民衆の利益のためなりと信じたその惡戰苦闘の一頁は大に彼のため買つてやるべきであつたであらう。

顧みれば加藤高明を總裁とする憲政會の苦節十年の悲運はよく彼等によつて挽回され又剛健なるを得たものであつた。そして民政黨成れる今日に於ても依然として彼等は相倚り相扶くる一黨の大黒柱でもあるのだ、彼の政歴を今更縷述する必要はないかも知れぬが、人物雲の如くあつた憲政會内閣の時、既に逓信政務次官をやつた外、役人をやつた事がないほどの黨生え抜きの存在で、黨では本部總務、院内主任總務等幾度かつとめあげすべてが試験済みの彼である、彼の眞骨頂として認むべきは、周密なる萬策を凝らして一度その決着點に到達すればこれを斷々乎として實行に移す勇氣と手腕を保持する點に於て黨中第一人者であらう。

政黨人として彼が政治を以て彼の生命の唯一最大の對象として居るに不思議はないが、しかし彼は極めて坦々たる憲政の常道を歩まんとして居る、殊に時代の政治意識を把握する能力とこれを實現する戰鬥力とを兼ね備へて居る點に於て昭和政治家中數少いとまで稱されても居るのだ。

殊に彼が普選獲得に活躍した事は今更申すまでもないが、普選の功勞者として彼の政歴は一段とその輝を増すであらう。



彼と外交問題

將來を期待される男

六〇

蘆田均氏

政友會若手切つての外交官である、法學博士で政治家となつて未だ一回の場敷しか踏むで居ないが、將來ある政治家としてその前途に對し興味を以て觀られても居る。政黨聯携運動で民政黨の少壯純眞派と共に十六日會を組織して憲政運用のために、努め、一方政界の革新を叫ぶでも居る。頭腦の冴えもあり辯舌も達者、最高幹部にも信頼されて居る。彼は東京帝大法科大學卒業後、外交官補となり、大使館三等書記官、外務書記官兼參事官、大使館一等書記官同參事官に歴任し、露國、土耳其、白耳義等に在勤を命ぜられた事もある。世界大戰後の「歐洲外交」、「列強の政戰」、「ロシア印象記」、「君府海峽通航制度史論」等の著がある。各政黨に於ける少壯代議士中外交問題を得意とするものはあつても多くはつけ焼刃的存在でしかない。



將來ある政治家

少壯政治家の大物

卯尾田毅太郎氏

民政黨陣營に於ける青年政治家中、その政治將來を約束されてゐる。衆議院の議席を贏ち得る事、一回の場敷しか踏むでゐないが、既に院内外に於ける幹事として活躍し、その力量才腕を認められ當選回数を重ねるにつれ大幹部の列に自ら進み入るであらう事が確實とされて居る。従つて町田總裁始め首脳部筋の信頼厚く彼が近來メキ／＼とその存在を明確にしてゐる所以であらう。人間としては正しき眞面目さを缺かさず従つて黨本部の役員としてもなかくよく働ける男で議政壇上に於ても實際の事務の上にも一分の隙を見せた事なき俊英でもあるのだ。さりながら彼の腕の見せどころは眞にこれからである。何んと言つても彼は青年政治家中の大物で一方なかく好い素質を有してゐる事だ。人の世話や面倒は痒いところに手の届くほど見てゐる。即ち彼は嘯めばかむほど味の出る人間味ゆたかな政治家である。民政黨のともすれば智にまさりて情に缺くる傾向のある個性に對し彼の如き政治家を一枚加へてゐる事は何んと言つても民政黨の強味でもあらう、民政黨の將來に對し深く考慮を有してゐる町田總裁その他の首脳部諸君、かゝる大臣の卵を大切にはぐみあげ大成せしむる事は又た諸君に課されたる責務であらう、何れにせよ彼の政治將來は興味深く富山縣は好い代議士を衆議院に送つてゐると謂ふべきであらう。



大 臣 級 の 男

近 頃 彼 の 聲 望

大 麻 唯 男 氏

今日に於ける大麻は、中央政界、何れの方面に廻しても立派な存在であると共に昭和政界に於ける寵兒でもあるのだ。殊に民政黨では、町田總裁の背後を擁する支柱として重きに任じ、近き將來大臣の椅子に座すべき男として今や之を信じて疑ふ者のない聲望を有する彼であるのだ。濱口内閣の時、文部參與官に任ぜられたのは彼が當選二回の時でもあつた。當時、民政陣營には人物雲の如くあつまり苦節十年を経た間のない時だけあつて、彼の就任に對し、これを人物採用の新傾向として慶賀されたものであつたが、しかし彼の實力は之を裏切らず立派な參與官として頗る好成績を示したものであつた。爾來、黨の情報部長から院内總務、黨總務、幹事長、總務、常任顧問、總務と言つたやうに黨の重要な機關は通過して居るが、わけでも幹事長時代は二度も續き頗る名幹事長として好評されて居ただけ、餘りに好評過ぎて反てアル方面に、そのやり過ぎを難ぜられたやうな挿話もあつたものであつた。樞要なる椅子の重なるにつれ、彼の政治貫祿の加重するに従ひ彼の人柄をしていよいよ圓熟さゝすには置かないのだ、殊に彼の努力家としての存在は黨内彼の右に出る者す

くなく黨務妻帯を念とせずとは彼の事かも知れないのだ、そして彼が今日町田總裁と美しき關係を取り結び、兩者相許し相扶ける事恰も父子の如きものある所以は實に彼の胸中よりほとばしる愛黨心そのものに因るものが多いのである。彼の眞骨頂として認むべきは周密なる劃策を凝らして一度その決着點に到達すればこれを斷々乎として實行に移す勇氣と手腕を保持する事である、細心にして太ッ腹、何事に對しても責任感強く、自ら正と信じた事に對し所信斷行に躊躇するものではない。即ち彼は政治家として、一種の氣魄を多量に包含して居るのである。さりながら彼は何處までも自己完成に努める事を忘れず、何處までも大衆の暖かい抱擁によつて健全にしかも優秀に太つて行かうとして居るのだ、そして黨にあつては何處までも自己を無にして町田老總裁を繞る一の守護者として民政黨の礎をいよいよ強化すると同時に常に熱誠と熱意を以てまた黨内親和の楔となり自ら處する事を忘れない彼でもあるのだ。今や戦時下に於ける政黨の責務は重い、彼は戦時及び戦後の對策のため一大努力を傾注して居るのである。

388
288

不許
尖風
復製

昭和十四年一月一日發行
昭和十四年三月十五日再版

政局を繞る人々 奥附

【定價金三十五錢】

著者 東京市世田ヶ谷區太子堂町四三二
角屋 謹一
發行者 東京市世田ヶ谷區太子堂町四三二
角屋 謹一
印刷所 東京市芝區田村町二丁目十四番地
天沼印刷所

